

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	F117310105451	設置等組織名	総合科学部総合科学科
大学名	金沢星稜大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	石川	事業計画名	地域の創造的復興を支える文理融合型人材育成を目的とした金沢星稜大学総合科学部の設立

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ 1	1-①令和 6 年春期から夏期 新学部準備室 設置 1-②令和 6 年春期から夏期 STEAM-D構想に基づく教育体制及び「横断型協同教育・研究支援体制」に基づく業務体制の整備開始 1-③令和 6 年夏期から秋期 新領域学部について第一次マーケット調査 1-④令和 6 年秋期から冬季 新領域設置についての対外意見交換会の設定 1-⑤令和 7 年 4 月 「横断型協同教育・研究支援体制」に基づく業務体制の開始 1-⑥令和 7 年夏期から秋期 新領域学部について第二次マーケット調査 1-⑦令和 8 年 4 月 「横断型協同教育・研究支援体制」の活動定着 1-⑧令和 8 年夏期から秋期 新領域学部について第三次マーケット調査	1-①令和 6 年春期から夏期 新学部準備室 設置 1-②令和 6 年春期から夏期 STEAM-D構想に基づく教育体制及び「横断型協同教育・研究支援体制」に基づく業務体制の整備開始 1-③令和 6 年秋期から冬期 新領域学部について第一次マーケット調査（R7.3.28承認） 1-④令和 6 年秋期から冬期 新領域設置についての対外意見交換会の設定 1-⑤令和 6 年12月 アンケート項目検討のため、クラウドソーシングによるWebアンケート調査を実施	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ 2 前倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請又は届出	令和 9 年 3 月 総合科学部総合科学科(仮) 認可申請予定			
フェーズ 1 後倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ 2	2-①令和 9 年 キャンパス改修工事[第 1 期] ・既存のキャリアデザイン館を新学部用に改修する。（2 フロアー想定） ・既存の本館に設置していた法人管理部門を先行整備済の施設に移設した後に、同スペースに新学部用の教員研究室及び共同演習室等を整備する。		○年度自己評価	リストから選択してください。
開設又は定員増	令和10年 4 月 総合科学部総合科学科開設予定（入学定員75人、社会学・社会福祉学、工学、農学、理学関係）			
フェーズ 2 後倒し	2-①令和10年 キャンパス改修工事[第2期] ・既存のキャリアデザイン館を新学部用に改修する。（1 フロアー想定）		○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ 3	3-①令和10年 4月 総合科学教育改善・推進室 設置 ※本学として初めて取り組む理系分野の教育を円滑に定着・深化させるために、新学部の内部質保証活動を一元的に担当する。 3-②令和10年度 第 1 期入学者に対する入学時点調査及び年度末到達調査 3-③令和11年度 第 2 期入学者に対する入学時点調査及び年度末到達調査 3-④令和12年度 第 3 期入学者に対する入学時点調査及び年度末到達調査 3-⑤令和13年度 第 4 期入学者に対する入学時点調査及び年度末到達調査 以降、毎年度の調査を継続し、計画した教育成果の実現に向けたPDCAサイクルをまわしていく。		○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止	女子短期大学部経営実務科（経済学関係） 令和 6 年 1 1 月 定員減の届出（5 2 人減）、令和 7 年 4 月 入学定員 9 8 人 令和 8 年 5 月 定員減（募集停止）の届出予定		○年度自己評価	リストから選択してください。

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	金沢星稜大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i) 学生募集停止中の大学

該当無し

☒ チェック
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し

☒ チェック
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し

☒ チェック
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し

☒ チェック
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し

☒ チェック

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。	
	確認を受けている☒ チェック 確認の対象に該当しない☐ チェック	
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる☒ チェック	
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）	
	計画通りに進んでいる☒ チェック	
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる☒ チェック	
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる☒ チェック	
⑥	特定成長分野に係る学部を設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。	
	計画通りに進んでいる☒ チェック	
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。	
	計画通りに進んでいる☒ チェック	
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる☒ チェック	
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。	
	計画通りに進んでいる☒ チェック	
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）	
	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った☒ チェック	
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。	
	計画通りに進んでいる☒ チェック	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	金沢星稜大学
-------------	-------	-----	--------

⑪	フェーズ3の助成期間終了時まで、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。	
	計画通りに進んでいる	
⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる	
⑬	選定された大学は、公算要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。	
	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	
⑭	文科科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
	認定を受けておらず申請する意向もない	

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- ☒ チェック
- a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☒ チェック
- b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☒ チェック
- c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
a. 本学では、「令和6年度能登半島地震」の発生をうけて、2024年度科目としてオムニバス科目「創造的復興学」を新たに開講することとした。この「創造的復興学」をきっかけとして、地域行政・企業・地域系シンクタンクと連携し、地域の創造的復興を学ぶためのPBL型授業を総合科学部の開設科目として開設するための連携協議を、2024年に設置する新学部準備室が中心となって推進する。 b. また、同科目を「大学コンソーシアム石川」や「金沢市近郊私立大学等の特色化推進プラットフォーム」へ提供するとともに、他大学との共同開講の可能性についても検討する。 c. 人文学部での活動を基盤とした、20カ国・地域 61大学の海外協定校との間においても連携プログラム開設の可能性を検討していく。	a. 地域の創造的復興を学ぶためのオムニバス科目「創造的復興論」を2024年度に新規開講し、本学学生414名が受講した。引き続き2025年度にも開講し、PBL型授業への展開を検討する。また、令和6年能登半島地震の被災地支援のボランティア活動に、本学学生延べ約150名が参加した。本学の専門性とリソースを最大限に活用するとともに、地域社会との連携をさらに深めた。本学では、「地域連携による地域貢献活動」推進事業や金沢市や白山市等自治体との連携協定により、各ゼミナールが地域の課題解決に取り組んでおり、引き続き関係機関の協力を得て、総合科学部の開設科目とするための協議を進める予定である。2024年度は、金沢市との連携事業報告会および石川県中小企業家同友会において意見交換を行った。 b. 同科目を「石川シティカレッジ」開講科目として「大学コンソーシアム石川」へ提供し、加盟校の学生41名が受講した。 c. 2024年度は、海外協定校であるコドラーニヤーノシュ大学（ハンガリー）と連携プログラムの科目を調整し、2026年度の開講に向けて準備を行った。また、新たな海外の大学との連携プログラムの実施を検討する。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☒ チェック
- a.入学者選抜における科目の見直し
- ☒ チェック
- b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☒ チェック
- c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☐ チェック
- d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキングへの対応）
- ☐ チェック
- e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
a/b/c. 入試制度・科目の見直し、女子学生確保、初等中等学校との連携についてはこれまでも取り組んでいるところであるが、それぞれの課題が分断されて取り扱われてきた点については反省がのこる。 2024年度より大学全体の課題として「横断型協同教育・研究支援体制」を整備し、「入学」「教育」「進路」などを横断・統合的に捉えて各種課題の解決・向上に向けた施策に取り組んでいく。 2025年度までに、入試の制度設計、受験生確保のためのマーケット戦略、高校のみならず中学までも視野に入れた教育連携、出前講義などの課題を総合的に対応可能となる「アドミッションセンター」の機能を整備する計画である。	a/b/c. 2024年度は、学内会議である入学者選抜会議において、入試にかかる各課題を横断・統合的に捉え検討を進めた。「入学」「教育」「進路」までのデータを一元的に管理するIR室を設置し、また、受験生確保のためのマーケット戦略に横断的に取り組むため、教員、職員からなる広報ワーキンググループを立ち上げ、情報収集とより効果的な広報戦略の検討を行った。 2025年度は、入学者選抜会議、IR室、広報ワーキンググループが連携し、入試の制度設計、受験生確保のためのマーケット戦略、初等中等教育機関との連携に取り組み、「アドミッションセンター」の機能を果たすとともに、既存学部の改善・改革のため、新学部設置準備室を中心とした「大学改革推進室」の設置を検討する。	

大学名	金沢星稜大学
-----	--------

1. 本事業対象となる学部等の状況

<合計>

[illegible]

大学名	金沢星稜大学
-----	--------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	658	658																	
		入学者数	人	740	807																	
	その他の学期	入学定員	人	***	***																	
		入学者数	人	***	***																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	658	658																	
		入学者数(B)	人	740	807																	
		入学定員充足率 (B/A)	倍	1.12	1.23																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	2632	2632																	
		編入学定員	人	0	0																	
		在籍者数(D)	人	2794	2936																	
		編入学者数	人	2	2																	
		収容定員充足率 (D/C)	倍	1.06	1.12																	

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度
改組状況			選定－6年	選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定													
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		14,703	17,471	18,468	32,698	35,216	26,839													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	22,879
本事業による助成金の額(F)	千円	693,166
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	40,208

特記事項

編入学定員は、若干名としている。
